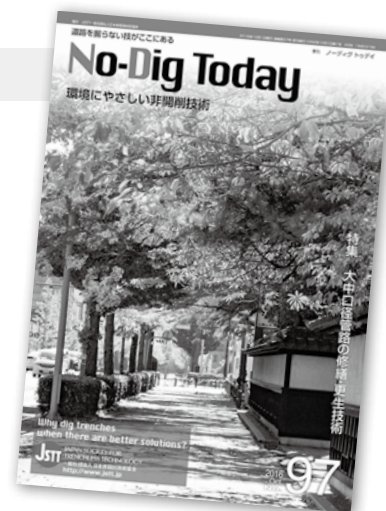




No. 97号の特集、「大中口径管路の修繕・更生技術」では、具体的な施工の状況が図や現場写真を用いて紹介されており、大変理解しやすい内容でした。また、施工後の追跡データとして、東日本大震災、熊本地震における損傷の状況も検証されており、実績のデータとして有用な知識を得ることが出来たと感じております。

昨今では、福岡市内で発生した大規模道路陥没により、その危険性が広く知られることとなりました。今回の陥没の原因は地下鉄工事にありまし

たが、老朽化した下水道管路に起因する道路陥没も全国で発生しており、対策の必要性が再認識された事故であったと感じております。

老朽管対策のニーズが高まる今、この特集はまさにタイムリーな話題であったと思います。次号No.98で特集される予定の「小口径管路の修繕・更生技術」と合わせ、これらの情報により下水道管路の老朽化対策がさらに推進されることを願っております。



今 回の特集のテーマは「大中口径管路の修繕・更生技術」でしたが、自分自身の職務内容に直結するテーマでありましたので、とても勉強になりました。大中口径管路の更生技術は高いレベルでの耐荷力や耐震性能を求められていますが、各工法があらゆるニーズに対応すべく、常に新しい技術開発を行っていることが特集の各記事から読み取ることができました。私も新しい技術に対して常にアンテナを張り、自分から積極的に情報を仕入れなければならないと再認識いたし

ました。

また、No-Dig Todayでは毎号海外イベント報告にて海外の技術や制度が掲載されており、グローバルな視点が喚起され、とても刺激になっています。今後も貴誌を通じて、非開削技術についてさらに勉強させていただきたいと思います。



老 朽化した下水道管渠の増加に伴い改築・更新が必要となる中、今号の特集の「大中口径管路の修繕・更生技術」は今後重要になってくると思われます。

ご掲載頂いた工法は知らないものばかりで、各工法独自の技術で創意工夫がなされており、大変興味深く拝読致しました。その中で特に驚いたのは、既往地震にて耐震性能が立証されていた点です。それら結果の蓄積や周知が更生技術の発展に繋がるのではと感じました。

老朽管の増加や昨今囁かれている大地震発生を鑑みると、それら技術を用いた下水道管の改築が増加するものと考えられます。私は管渠改築設計は未経験ですが、今後そのような設計に携わる際には今特集をぜひ参考にさせて頂きたいと思います。

最後に、本誌を拝見する中で非開削技術が日進月歩していることにいつも驚かされています。今後もより多くの最新技術をご紹介頂けると幸いです。